

[科目名] 金融機関論				[単位数] 2 単位		[科目区分] 専門科目 展開科目	
[担当者] 山本 俊 Yamamoto Shun		[オフィス・アワー] 時間:第 1 回目の授業でお伝えします。 場所:528 研究室			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] 金融機関論では、間接金融の中心的な担い手である銀行等の預金取扱金融機関を対象とし、ミクロ経済学を分析ツールの基本として大きく3つのことを学修します。 第1部では、銀行を中心とした預金取り扱い金融機関が現在のような業態に至るまでの歴史的な経緯や経営環境の変化を辿ることで、銀行等に対する規制の意義や役割、成果の計測方法について学修します。 第2部では、複数の金融市場で行動する銀行等の合理的な行動をミクロ経済学(や情報の経済学)の視点から分析し、銀行貸出が政策や情報の非対称性などによって、どのような影響を受けるのかを学修します。 第3部では、銀行等のリスク管理に焦点を充て、リスク定量化の方法やリスク管理手法について学修します。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 1. 他の科目との関連付け ファイナンス理論では、証券市場を中心とした直接金融に関する理論を学修しました。一方、金融機関論では、間接金融の中心的な担い手である銀行等の預金取扱金融機関に関する業態や理論、評価方法などを学修します。したがって、金融機関論では、ミクロ経済学の考え方が基本となりますので、その十分な理解が必要となります。その他にも、「金融政策の効果が金融市場や金融機関を通じて投資や消費に波及するメカニズム」など、マクロ経済学や金融経済学Ⅱでの学修内容も求められます。 2. 学んだことが何に結びつくのか? 経済学を通じて銀行等の役割や行動を理解することは、私たちの暮らしをより充実させるためにも、企業目標を達成するための資金調達においても、不可欠であると考えられます。							
[科目の到達目標] ・銀行等に対する規制の意義や役割、成果の計測方法について説明できること。 ・銀行貸出が政策や情報の非対称性などによって、どのような影響を受けるのかを説明できること。 ・銀行等によるリスク定量化の方法やリスク管理手法について説明できること。							
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません							
[教科書] 金融機関論では教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の参考書を参照しています。							
[指定図書] なし							
[参考書] 参考書1:筒井義郎『プログレッシブ経済学シリーズ 金融』東洋経済、2001 年 参考書2:内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年							

<p>参考書3:工藤和久『現代金融論入門 情報と信用』現代図書、2010年</p> <p>参考書4:福田慎一『金融論【新版】』有斐閣、2020年</p> <p>参考書5:村瀬英彰『シリーズ新エコノミクス 金融論 第2版』日本評論社、2016年</p> <p>参考書6:茶野努、安田行宏編著『基礎から理解するERM』中央経済社、2020年</p>	
<p>【前提科目】 ミクロ経済学、マクロ経済学、金融経済学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</p> <p>以下の方法によって成績評価します。</p> <p>①授業内クイズ:30%(第9回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。)</p> <p>②期末試験:70%(択一式と記述式の併用)</p> <p>※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>①この授業においては、「何故なのか」という視点を強く意識し、考える過程をしっかりと辿るよう意識します。</p> <p>②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。</p> <p>③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。</p> <p>④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。</p> <p>⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。</p>	
<p>【実務経歴】特に、なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、銀行業の経営努力と経営統合(第1部#1)</p> <p>内 容: シラバスの確認等のガイダンスをします。</p> <p>2025年1月、青森県に新銀行が誕生したことを踏まえ、背景にある「政府や日銀の政策」や「合併までの準備」について学び、金融機関論に対する関心を高めます。事前に、金融庁が2018年に公表した「地域金融の課題と競争のあり方」に目を通しておくと理解が深まります。</p> <p>教科書・指定図書:配布資料及び上記の金融庁公表資料</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 銀行等の歴史、預金取扱金融機関の分類と機能(第1部#2)</p> <p>内 容: 銀行等の歴史を振り返ることで、金融経済学でも学んだ「銀行等の業態」が形成された経緯を学修します。その上で、銀行等の金融機関が役割を果たす上での特性を学修します。</p> <p>参考書1の10章、11章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 業務分野規制と利益相反(第1部#3)</p> <p>内 容: 第2回目で学修した業務分野規制の根拠を利益相反という視点から考え、業務分野規制の変遷を掘り下げて学修します。特に、ONE WAY 規制に対する批判や、2021年の銀行法の改正に注目します。</p> <p>参考書1の10章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 銀行の業務(第1部#4)</p> <p>内 容: 銀行の業務を法律にもとづいて確認し、銀行内部の組織の役割と関連付けて、貸出業務や預金業務について学修します。</p> <p>参考書2の第8章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 銀行の財務諸表(第1部#5)</p> <p>内 容: 現実の銀行の財務諸表を用いて、銀行の業務を包括的に確認します。</p> <p>参考書3の第3章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 銀行経営を評価するためのいくつかの指標(第1部#6)</p>

	<p>内 容:第5回目で学修した「銀行の財務諸表」を用いて、銀行経営を評価するためのいくつかの指標を学修します。</p> <p>参考書3の第3章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行行動の理論(1)(第2部#1)</p> <p>内 容:ここでは、ミクロ経済学の生産者理論や不完全競争市場の理論を銀行に応用します。銀行は貸出と同時に、預金収集、コール市場での資金貸借、オープン市場の証券売買をしていますので、こうした部分をどのように単純化し、銀行利潤を定式化するのかを考えます。その上で、銀行貸出の需給を考え、信用割当と呼ばれる現象を考えてみましょう。</p> <p>参考書1の第8章、参考書4の第5章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行行動の理論(2)—不確実性を想定—(第2部#2)</p> <p>内 容:第7回目で学修した内容に、不確実性が導入されれば、銀行行動がどのように変化するかを考えてみましょう。</p> <p>参考書1の第8章、参考書4の第5章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行貸出における逆選択(第2部#3)</p> <p>内 容:ここでは、貸手と借り手の間にある情報の非対称性に注目し、リスクの高い投資案件を有する借手に対して貸出が行われてしまうことがあることを学修します。また、クイズも実施予定です。</p> <p>参考書2の第4章、参考書4の第5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):逆選択と均衡信用割当(第2部#4)</p> <p>内 容:第9回で学んだ逆選択がある場合の銀行貸出の供給曲線について考えた上で、銀行貸出の需給が均衡した場合に、超過需要が発生し得るという「均衡信用割当論」を学修します。</p> <p>参考書2の第4章、参考書4の第5章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融取引を阻害する要因の軽減策(第2部#5)</p> <p>内 容:ここでは、逆選択などの金融取引の阻害要因を軽減するために、銀行などの金融仲介機関が採り得る方法を整理し、それが社会的にどんな役割を果たしているのかを学修します。</p> <p>参考書2の第4章、参考書4の第5章、参考書5の第2章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行が直面するリスクと定量化の方法(1)(第3部#1)</p> <p>内 容:銀行等の金融機関が直面する大きく4つのリスクを取り上げ、それらの定量化の方法を学修します。特に、第12回目では、信用リスクと市場リスクを取り上げます。</p> <p>参考書1の第8章、参考書6の第1章、第4章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行が直面するリスクと定量化の方法(2)(第3部#2)</p> <p>内 容:銀行等の金融機関が直面する大きく4つのリスクを取り上げ、それらの定量化の方法を学修します。特に、第13回目では、流動性リスクとオペレーショナル・リスクを取り上げます。</p> <p>参考書1の第8章、参考書6の第1章、第4章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):銀行のリスク管理の方法(第3部#3)</p> <p>内 容:ここでは、銀行等の金融機関がどのようにリスクを管理しているのかを考えてみましょう。</p> <p>参考書6の第4章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域銀行の経営成果を計測するための経済理論(まとめ)</p> <p>内 容:私たちにとって身近な地域銀行の経営成果を計測するための経済理論を確認し、実際に、地域銀行の経営成果を計測し、改善に向けた目標を示します。</p> <p>参考書1の第9章</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。</p>